

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374900302		
法人名	有限会社三ヶ所		
事業所名	グループホームむつみ苑		
所在地	愛知県日進市本郷町西原北通871		
自己評価作成日	平成25年 1月29日	評価結果市町村受理日	平成26年 8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JiyosvoCd=2374900302-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年 2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハード・ソフト両面についてバランスの取れたレベルアップを図ることを主眼としています。特に記せば利用者の楽しみの一つである食事については調理にも時間をかけ工夫を重ねております。福祉関係者、入居希望者及びそのご家族等の来苑は日時を問わず歓迎し感想をお聞きして事業運営の参考としたいと考えております。また地域の方々にも事業所を認識していただけるようボランティアを歓迎し積極的な地域交流を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者との良好なコミュニケーションとは、適切な接遇であると考え、全職員にエチケットマナーの周知を図っている。利用者の尊重や尊厳の確保、言葉かけや利用者の言葉の傾聴等、本人が嫌な思いをせず、不快な気分にならないように、徹底した利用本位のコミュニケーションに努めている。「介護のプロとしての意識」を持つことを目的とする職員育成は、職員の質の底上げに、確実に成果を上げている。
 利用者の楽しみを考えながらの日中活動にも様々な工夫がある。パティシエ訪問で本格スイーツを味わったり、音楽療法で昔を思い涙したり、毎日いきいき体操で体を曲げたりのぼしたりと、利用者が楽しみに待っている活動ばかりである。日常の暮らしの中に、適度な刺激を取り入れ、心身ともにメリ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳の保持と自立支援(一人ひとりに合った)を常に意識して日常の言動により具現化することです。	利用者の尊厳を第一に、「その人らしい暮らし」を支えることを目指しており、そのためには職員のエチケットマナーが大切だと考えている。職員は研修を重ね、全体会議で繰り返し検討し研鑽を積んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する中学校との交流、ボランティアの来苑の定着、利用者様の住んでおられた地域の老人会などへの参加継続、毎月多くの交流ができています。	地域に根付いた施設であり、隣接の中学校とは特に交流が進み、市民ホールで行なわれる吹奏楽部の演奏会に招待されたり職場体験の受け入れをしたりしている。また様々なボランティアが来訪し、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する中学校のボランティア活動としての場所として活かし認知症サポーター講座などを通して多くの生徒さんへ認知症の理解や支援の方法を伝えることができつつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常時10名程度の出席のもと、特に市高齢福祉課担当者、中部地域包括支援センター担当者に出席いただき有益な助言を、また民生委員、地域住民代表者の方々からは地域の幅広い情報や意見をいただいております。	年6回、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行なっている。利用者家族、地域代表、行政と幅広い人材が参加し、ホームの現状について報告を行うと共に、様々な議題について有意義な意見交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は行政への届出が多かったが市担当者が何でも相談し指導・助言を得られ助かりました。	市との連携は密にとれており、運営推進会議には市の高齢福祉課職員、地域包括センター職員が毎回参加している。法人代表は市の虐待防止委員に委嘱され、行政との協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の世情については常時開放は実態として厳しい。	看護師が中心となり拘束しない支援の意識統一を図っており、職員も十分に理解している。自立の支援を重視するため、拘束しないことが危険と表裏の関係にあることを、家族にも丁寧に説明し、家族と共に支援方法を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	法において範囲の広がった本質を理解し「不適切なケア(ことば)」を含めた考え方や、防止・対応の具体例をもとに継続して学び実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業により金銭管理、青年後見制度の保佐人を2名の利用者が活用しており事業者の立場としても利便性があり有益です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「入居者利用契約書」「重要事項説明書」及び健康診断書用紙は入居1週間前には面談にて読んで説明その期間に不明な点についての質問に応じ、お応えするようしており、その後正式契約をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情のない方は多少とはいえない方はいないと考える。したがって発言できる「雰囲気作り」が非常に大切であり発言に対してに「できる」「できない」をお応えすることにしております。	利用料の支払いを毎月事業所で行ない、家族と毎月面談して意見や要望を聞き取る機会としている。同時に利用者の日常について報告し、情報共有を図ることで、良好な関係作りにつなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例職員会議は毎月11日午後7時15分より開催。全員が発言する機会を作り有益な意見は取り入れています。	法人代表は日常的に職員の意見を吸い上げる努力をしており、「報告できる体制作り」を目指している。職員のヒアリングでも、何でも相談できるとの声があり、関係の良さが感じられた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(財)中小企業退職金共済に加入しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容に応じてまた職員のキャリア・レベルに応じて参加させております。職員会議の席で研修の要旨は発表しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開業時より県グループホーム連絡協議会加入。個々にも各種研修に参加、徐々に交流の輪は増えつつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なんでも話せる「雰囲気づくり」に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴、病歴、家庭環境等「ゆっくり」聞くことに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ユニットの職員もほぼ固定化しており顔馴染みの職員によりケアを継続しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等の来苑は日時を問わず歓迎、現状の把握の共有に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の町内会や老人クラブの連絡で会合やイベントなど出席される方は満足されていますが残念ながら個人差が大きいです。	利用者の友人の来訪が多く、入居前の地域の行事への誘いも多い。加入していた年金者の会の催しや自治会のもちつき大会などに参加して、馴染みの関係が途切れないよう支援している。家族関係の継続にも力を入れ、関係が途切れないように、ホーム側から働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となって支援していますが、状況によりユニット間の移動もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際は入院→死去が多いが退苑者のアセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡しリロケーションダメージを最小限に努めております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で言葉や表情などからその真意を推し測ったりして確認をしていますが、ご家族や関係者からの情報も有益です。	日頃から利用者の話をよく聞き、話の内容だけでなく、仕草や表情からも意向を把握するよう努めている。職員は申し送り時や回覧ノートを利用して情報を共有し、日常の支援に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	早急に全体像を知ることは困難、日々の生活の中で少しずつ得るように心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や些細なことから生活リズムを理解して本人の全体像をつかむようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状況の変化が小さくても3カ月(2、5、8、11月)に一度白紙に戻し家族とも話し合い作成署名をいただいております。	毎月の職員会議でカンファレンスを行い、日常の支援の中で掴んだ利用者の情報や家族から出された意見・要望を併せて検討し、その結果を介護計画に反映している。毎月のモニタリングで状態や状況変化に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にてバイタルチェック、食事・水分摂取量、排泄等身体状況日々の暮らしの様子は記録、体調不良の時は特に頻度を高め詳細に記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調急変時家族等の要請により病院送迎に留まらず立会など特に独居の利用者の場合このような事例は増加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会、地域包括支援センター、ボランティア等、共同によりQOLが向上しつつあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりのかかりつけ医の希望はそのまま継続しています。事業所では協力医療機関より第1, 2, 3, 4金曜日(各ユニットごとに隔週)に往診があります。	内科・歯科・メンタルクリニックの往診を支援している。歯科診療台も設置し、適切な受診ができるように工夫している。総合病院が提携医になっているため、緊急時も含め、幅広い対応が家族の安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員勤務について同一敷地内の小規模多機能居宅介護事業所第2むつみ苑の看護師と調整し休暇については同日に取らぬようにして補完しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2, 3日に1回は職員が見舞うようにしております。家族とも情報交換を密にし速やかな退院支援を導くようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向をふまえ医師、職員が連絡連携を取り安心して再起が迎えられるように意思確認をしながら取り組んでおります。	利用者や家族の意向を尊重し、できる限りの支援を行なう方針である。提携医の協力・理解もある。終末期に用いる薬剤については看護師が厳重に管理している。法人代表は職員にターミナルケアの意味を充分考えるよう指導しており、職員の意識は高い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急手当で蘇生術の研修を実施職員が対応できるように努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震度6～7を想定し非常用食料、備品を準備するとともに消防署の協力を得て通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用訓練を定期的に行っております。	スプリンクラーの設置、三日分以上の飲食料の備蓄をしている。避難訓練は併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で、年二回実施している。日進市の指定避難所にもなっており、行政の協力も得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼稚言葉、「ダメ」は言わぬと合言葉にしております。	エチケットマナーの徹底で適切にコミュニケーションを図っている。幼児言葉の禁止、制止や制限につながる言葉かけの禁止等、職員もこれをよく理解し、日常支援に反映している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて本人が表現しやすいような働きかけをしている。難聴の方にはジェスチャー筆談で確認をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、区切った過ごし方はしていません。各自の体調に配慮し利用者の気持ちを尊重してできるだけ個性のあるケアをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見守りを主体とし自己決定がしにくい利用者は職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心がけております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もっとも大切な活動の一つとしてとらえ、献立は職員が行い。調理は職員、利用者が共に行い、同じテーブルを囲い楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にしております。	併設の小規模多機能居宅介護事業所の厨房で、豊富なメニューの食事提供がある。配膳・下膳、後片付け等は共同作業で行っている。行事食等も趣向を凝らし、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に摂取量記入欄あり体調不良の方は摂取水分量の記録をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力の方は見守りをし、できない方に関しては毎食後のケアを行っております。服薬見守りと共に大切な介護業務であり一人ひとり確認しながら行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し様子から敏感に察知し身体機能に応じて車いすの移乗、歩行介助を行っております。介護日誌に排泄チェック欄使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援しています。	トイレ排泄を基本として、利用者の状態や状況に合わせた支援を実践している。排泄と排便のチェックを行い、声掛けや誘導に活用するとともに、本人の健康状態の把握にも活用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンは大体決まっている。便秘時は特に水分補給と繊維質の多い食材を提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常ほぼ毎日午後から入浴ができます。入浴しないときは足浴をしております。	毎日の入浴を提供している。利用者毎には隔日以上に入浴ができるように支援し、清潔保持の観点から、入浴拒否が続いたり、体調等の状態変化時には、足浴・シャワー浴・清拭などで柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムは7時起床、21時就寝としているが、重篤者は個々対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主として看護師が管理、整理をしております服薬確認を徹底しております。特に、処方の変更時は全員に周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意欲を忖度し「お願いします」「ありがとう」を必ずことばで出し充実感を持てるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	馴染の喫茶店、スーパーに同行したり個人的には墓参り催事、演奏会、運動会等支援しております。	日常盛んに出かける近隣散歩は利用者の楽しみになっている。近隣の散策で地域の人たちと交流も進んでいる。地域の喫茶店利用、商店利用も同様に、馴染みになっている。家族対応の外出も支援し、外食・法事・墓参り等、おしゃれをして出かける利用者の姿がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な買い物等は当苑が立て替え払い領収書と交換で利用料支払い時に精算しておりそれ以外の現金管理はしておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い受信返書は、支援のもとで行っており電話使用は支援のもとで自由であります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして設計した建物であり使い勝手は良い。	清潔保持に関しては万全の対応がある。隅々まで掃除が行き届き、訪れた人に不快な思いをさせないようにとの配慮がある。特に匂いには敏感で、匂いを出さない工夫も随所に見られる。清潔・快適な空間は利用者にとっても最適な環境であると言える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記と同じく。居間の窓側には8畳の畳もありご家族との来苑時はソファもあり。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は自由に使用。利用者により仏壇、机、ソファ、ダンス、テレビ等が配置されております。	家族との協力で、馴染みの物品の持ち込みが多く、どの居室もその人らしさが感じられる。利用者が一人になれる空間であることから、居心地と安心・安全に配慮し、環境整備を行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めています。状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は、その都度話し合い本人の不安・混乱材料を取り除き自立支援につなげております。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374900302		
法人名	有限会社三ヶ所		
事業所名	グループホームむつみ苑		
所在地	愛知県日進市本郷町西原北通871		
自己評価作成日	平成25年 1月29日	評価結果市町村受理日	平成26年 8月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JkyosyoCd=2374900302-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	平成25年 2月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ハード・ソフト両面についてバランスの取れたレベルアップを図ることを主眼としています。特に記せば利用者の楽しみの一つである食事については調理にも時間をかけ工夫を重ねております。福祉関係者、入居希望者及びそのご家族等の来苑は日時を問わず歓迎し感想をお聞きして事業運営の参考としたいと考えております。また地域の方々にも事業所を認識していただけるようボランティアを積極的に地域交流を重ねています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳の保持と自立支援(一人ひとりに合った)を常に意識して日常の言動により具現化することです。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接する中学校との交流、ボランティアの来苑の定着、利用者様の住んでおられた地域の老人会などへの参加継続、毎月多くの交流ができています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接する中学校のボランティア活動としての場所として活かし認知症サポーター講座などを通して多くの生徒さんへ認知症の理解や支援の方法を伝えることができつつある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	常時10名程度の出席のもと、特に市高齢福祉課担当者、中部地域包括支援センター担当者に出席いただき有益な助言を、また民生委員、地域住民代表者の方々からは地域の幅広い情報や意見をいただいております。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年は行政への届出が多かったが市担当者が何でも相談し指導・助言を得られ助かりました。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の世情については常時開放は実態として厳しい。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法において範囲の広がった本質を理解し「不適切なケア(ことば)」を含めた考え方や、防止・対応の具体例をもとに継続して学び実践しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業により金銭管理、青年後見制度の保佐人を2名の利用者が活用しており事業者の立場としても利便性があり有益です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	「入居者利用契約書」「重要事項説明書」及び健康診断書用紙は入居1週間前には面談にて読んで説明その期間に不明な点についての質問に応じ、お応えするようにしており、その後正式契約をしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・不満・苦情のない方は多少とはいえない方はいないと考える。したがって発言できる「雰囲気作り」が非常に大切であり発言に対して「できる」「できない」をお応えすることにしております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定例職員会議は毎月11日午後7時15分より開催。全員が発言する機会を作り有益な意見は取り入れています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(財)中小企業退職金共済に加入しております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の内容に応じてまた職員のキャリア・レベルに応じて参加させております。職員会議の席で研修の要旨は発表しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開業時より県グループホーム連絡協議会加入。個々にも各種研修に参加、徐々に交流の輪は増えつつあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	なんでも話せる「雰囲気づくり」に努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	生活歴、病歴、家庭環境等「ゆっくり」聞くことに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記と同じ。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各ユニットの職員もほぼ固定化しており顔馴染みの職員によりケアを継続しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族等の来苑は日時を問わず歓迎、現状の把握の共有に努めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の町内会や老人クラブの連絡で会合やイベントなど出席される方は満足されていますが残念ながら個人差が大きい。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が調整役となって支援していますが、状況によりユニット間の移動もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	実際は入院→死去が多いが退苑者のアセスメント、ケアプランや支援状況等を手渡しリロケーションダメージを最小限に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で言葉や表情などからその真意を推し測ったりして確認をしていますが、ご家族や関係者からの情報も有益です。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	早急に全体像を知ることは困難、日々の生活の中で少しずつ得るように心がけています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの行動や些細なことから生活リズムを理解して本人の全体像をつかむようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	心身状況の変化が小さくても3カ月(2、5、8、11月)に一度白紙に戻し家族とも話し合い作成署名をいただいております。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌にてバイタルチェック、食事・水分摂取量、排泄等身体状況日々の暮らしの様子は記録、体調不良の時は特に頻度を高め詳細に記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調急変時家族等の要請により病院送迎に留まらず立会など特に独居の利用者の場合このような事例は増加しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会福祉協議会、地域包括支援センター、ボランティア等、共同によりQOLが向上しつつあります。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前よりのかかりつけ医の希望はそのまま継続しています。事業所では協力医療機関より第1, 2, 3, 4金曜日(各ユニットごとに隔週)に往診があります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員勤務について同一敷地内の小規模多機能居宅介護事業所第2むつみ苑の看護師と調整し休暇については同日に取らぬようにして補完し合っております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2, 3日に1回は職員が見舞うようにしております。家族とも情報交換を密にし速やかな退院支援を導くようにしております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向をふまえ医師、職員が連絡連携を取り安心して再起が迎えられるように意思確認をしながら取り組んでおります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力を得て救急手当で蘇生術の研修を実施職員が対応できるように努めております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	震度6～7を想定し非常用食料、備品を準備するとともに消防署の協力を得て通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使用訓練を定期的に行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼稚言葉、「ダメ」は言わぬと合言葉にしております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて本人が表現しやすいような働きかけをしている。難聴の方にはジェスチャー筆談で確認をしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れはありますが、区切った過ごし方はしていません。各自の体調に配慮し利用者の気持ちを尊重してできるだけ個性のあるケアをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	見守りを主体とし自己決定がしにくい利用者は職員と一緒に考えて本人の気持ちにそった支援を心がけております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もっとも大切な活動の一つとしてとらえ、献立は職員が行い。調理は職員、利用者が共に行い、同じテーブルを囲い楽しく食事できるよう雰囲気づくりを大切にしております。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に摂取量記入欄あり体調不良の方は摂取水分量の記録をしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力の方は見守りをし、できない方に関しては毎食後のケアを行っております。服薬見守りと共に大切な介護業務であり一人ひとり確認しながら行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し様子から敏感に察知し身体機能に応じて車いすの移乗、歩行介助を行っております。介護日誌に排泄チェック欄使用し尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導することによりトイレで排泄できるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンは大体決まっている。便秘時は特に水分補給と繊維質の多い食材を提供しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	通常ほぼ毎日午後から入浴ができます。入浴しないときは足浴をしております。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムは7時起床、21時就寝としているが、重篤者は個々に対応しております。		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主として看護師が管理、整理をしております服薬確認を徹底しております。特に、処方の変更時は全員に周知しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの意欲を忖度し「お願いします」「ありがとう」を必ずことばで出し充実感を持てるようにしております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	馴染みの喫茶店、スーパーに同行したり個人的には墓参り催事、演奏会、運動会等支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人的な買い物等は当苑が立て替え払い領収書と交換で利用料支払い時に精算しておりそれ以外の現金管理はしておりません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状、暑中見舞い受信返書は、支援のもとで行っており電話使用は支援のもとで自由であります。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホームとして設計した建物であり使い勝手は良い。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	上記と同じく。居間の窓側には8畳の畳もありご家族との来苑時はソファもありません。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個室は自由に使用。利用者により仏壇、机、ソファ、ダンス、テレビ等が配置されております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に合わせて環境整備に努めています。状況が変わり新たな混乱や失敗が生じた時は、その都度話し合い本人の不安・混乱材料を取り除き自立支援につなげております。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームむつみ苑

作成日: 平成25年5月13日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画の作成	本人やご家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め職員会議で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行いチーム全員で共有したい。	職員会議で意見交換やモニタリング、アセスメント、カンファレンスに加え朝夕の申し送りなど本人の取り巻く環境や本人の身体・精神まで漏らすことなく介護計画へ盛り込んで行きたい。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。